

# ESD レポート

地球と社会のための“人づくり” 応援マガジン

vol.32 2013年秋 2013年9月18日発行

認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議



ESD-J 全国ミーティング 2013 が岡山で開催！	1
「ESDの10年・地球市民会議」へのESD-Jの取り組み	4
新メンバー紹介/今後の予定/他	4



“未来へつなぐ”を現場で学ぶ”をテーマに、今年のESD-J全国ミーティングが6月15～16日に岡山市で開催されました。岡山市は2014年に日本で開催される「ESDに関するユネスコ世界会議」の主要な開催地でもあります。今回は岡山市と共催し、全国から139名の参加者（関係者を含めて200名以上）が集い、議論し、学びあい、そして交流を行いました。 ※開催プログラムは次ページ参照。

**ESD-J  
全国ミーティング  
2013  
が岡山で開催！**

## 現場でのESD実践拡大に向けて

～2014年に向けた文部科学省と環境省の取組みを聞く～

まず、文部科学省の岩本さんより、教育振興基本計画におけるESDの位置づけ、「ESDに関するユネスコ世界会議」の内容、2014年以降のシナリオ、日本ユネスコ国内委員会における議論、今後の展望などについてのお話がありました。岩本さんからは、「『国連ESDの10年』は2005年から2014年までですが、2014年で終わりではありません。ESDは2002年のヨハネスブルクサミットで我が国が提唱したもので、(中略)これは今後も継続的に続く課題です」との力強い言葉をうかがうことができました。

続いて、環境省の宮澤俊輔さんより、環境省がESDに関して取り組んでい

る4つの大きな柱、「普及啓発」、「実践」、「世界会議開催地の支援」、「国内外の連携」について説明がなされ、とくに「ESDを進めるうえで個々人の意識や理解を深めるだけでなく、持続可能な社会づくりに向けて実践することが大事だと思います」とのお話をいただきました。環境省ではこの「実践」を支援するため、高いスキルを要せずとも実践できる普遍的なESDプログラムをつくり全国に展開するという取組みを進めているとのことでした。

その後、岩本さん、宮澤さん、ESD-Jの阿部治の3名で、パネルディスカッション形式で話を行いました。この中では、

ESDを推進していく中での自治体の重要性や、政党・国会議員からもESD推進の要請が増えていることなどが話されました。また、「国連ESDの10年」が終了した後は予算が切れてしまうのではないかと懸念については、「ESDを日常化するのが2014年以降なので、それからESDの推進については持続的に取り組む必要がある」、「2014年が終わったらESD推進にブレーキがかかるようなことは、決してあってはならない」、「省庁だけでなく私たち民間も事業者も一緒にESDを進めていく」など、考え方については概ね方向性が一致しました。

(文：ESD-J事務局 長澤正嘉 / p.3まで)

ESD-J 全国ミーティング 2013 in 岡山  
～「未来へつなぐ」を現場で学ぶ～

日時：2013年6月15日(土)・16日(日)  
場所：岡山大学 及び 岡山市内公民館  
主催：ESD-J 共催：岡山市 助成：地球環境基金  
後援：文部科学省、環境省、日本ユネスコ国内委員会

- 【1日目】 ..... ※敬称略  
13:00 受付&ポスターセッション  
14:00 開会挨拶  
・重政子 (ESD-J 代表理事)  
・浅井孝司 (岡山市 ESD 世界会議推進局長)  
14:15 現場での ESD 実践拡大に向けて  
・岩本 涉 (文部科学省国際統括官付国際交渉分析官)  
・宮澤俊輔 (環境省総合環境政策局環境教育推進室室長)  
・阿部 治 (ESD-J 代表理事)  
15:15 ESD と震災～災害教育という考え方  
・広瀬敏通 (RQ 災害教育センター)  
16:10 「未来へつなぐ」プロジェクトについて  
・壽賀一仁 (ESD-J 理事)  
16:50 岡山市の取り組みの紹介  
・原明子 (岡山市 ESD 世界会議推進局)  
【2日目】 .....  
09:30 分科会  
第1：生物多様性をいかにした地域づくり  
・大橋弘司 (高島 旭竜工ミュージアムを語る会)  
・太田有香 (岡山理科大学 環境考古学研究会)  
・大島順子 (琉球大学准教授)  
第2：人と地域の力を引き出すコーディネーション  
・峰松 妙 (岡山市立岡西公民館館長)  
・三隅佳子 (北九州 ESD 協議会副代表)  
第3：学校と地域が連携した ESD  
・鈴木克徳 (金沢大学教授)  
・徳山順子 (岡山市立京山中学校校長)  
・平島省三 (岡山市立京山公民館館長)  
・堀井博司 (岡山市教育委員会事務局指導課長)  
第4：体験・事例から語る復興のコーディネーター  
・阿部正人 (宮城県南三陸町小学校教員)  
・佐々木麻衣 (岡山大学大学院環境生命科学研究科)  
・玉雲風、エレア・ジェミン、ジュリ・ムター (岡山大学)  
13:30 全体会 「岡山を通して ESD を学ぶ」  
・森 良 (ESD-J 理事)  
15:10 2015 年以降の ESD 推進の仕組みづくりについて  
・阿部 治 (ESD-J 代表理事)  
・内藤元久 (岡山市 ESD 世界会議推進局審議監)  
・新海洋子 (ESD-J 理事)  
15:55 クロージング (閉会挨拶)  
・阿部宏史 (岡山大学副学長)  
・池田満之 (ESD-J 副代表理事)

# 岡山市の ESD の 取り組みを紹介

「ESD とは自分のことだけでなく、世界中のことも考えるということなんだと思った」これは ESD のワークショップに参加した高校生の感想ですが、岡山市の原明子さんは冒頭でこの言葉を紹介しました。「岡山市では市役所が事務局となって ESD を推進しています。ESD には自分の価値観を揺らがせてくれる深い学びがあります。ESD の推進で思うのは、「しくみ」とそれを生かす“人”両方が必要だということです。」

「市では、学校や公民館などの教育機関だけでなく、子どもや若者を含めあらゆる層に向けてイベントを行ったり、さまざまな対話の場を設けています」。原さんは岡山市特有の“しくみ”に言及します。「37 の全公民館が地域の ESD 推進拠点となる

ことを目指しており、昨年度からは中央図書館でも ESD コーナーが設置され、すべての分館にも広げる予定です。これがまさに「組織力を生かす」こと。ほかにも今あるルートに道を通すとどんどん ESD の輪が広がっていくと思います」。

続いて、大学生時代から京山地区の活動に参加してきた井上紘貴さんからは、「大人が小中学生から学ぶべきところも沢山ありました。教育とは、先生から子どもたちへ教えるような一方的な流れだとずっと思っていたのですが、立場を超えて双方向にあるものだということを知りました」。岡山市立中央公民館の重森しおりさんからは、「学校の生徒たちと比較的高齢な公民館のクラブ生とが一緒に演奏(授業)をしました。『どうやったらうまくいくか?』を何度も話し合い、AKB48 の“ヘビーローテーション”を演奏することにして楽しい授業ができました」というお話がありました。



2012年11月に岡山市で行われたサステナガールズ・トークセッション

## 「未来へつなぐ人 (ESD コーディネーター)」 プロジェクトの映像教材を公開

ESD-J が推進している「ESD コーディネーター・プロジェクト」について、ESD-J の壽賀一仁から説明が行われました。「プロジェクトが目指すものは、『未来を変える人づくり』、『多様な主体・テーマを未来へつなぐ力を育むこと』、『コーディネーターが活躍できる仕組みをつくること』の3つです。『普段別々に活動している者同士が、意識してつながり合うことが大切なのではないか。』

「プロジェクト活動の柱は、「研修」と「教材づくり」の2つです。壽賀はまず“研修”について説明しました。「OJT 研修は、既に活躍している人を通して、縦割りだったところをつなげていくことが目的です。座学ではなく実践が重要であり、現場を持っているコーディネーターがつながることが大きな力となると思っています」。さらに、具体的な事例として、北九州 ESD 協議

会の三隅佳子さんが、2012 年度に北九州サステナビリティ研究所と北九州市環境局が主催して行った北九州市 ESD コーディネーター育成講座『ESD 未来創造セミナー』の内容について報告しました。

次に、「教材づくり」について、壽賀は米国 TED が作成した2分45秒の訴求力のあるビデオを紹介し、「まずは、最初に見てもらえるということが大事であると思っています。これが、テキスト、教材を作っていくヒントになったものです」と説明しました。「ESD コーディネーターとして育成したいのは、現場を持ち、活躍しているが、勉強に研修に時間を割けない人。そういう方に集まっていただくためのツールとして、動画が使える」。その後、プロジェクトの中で制作を進めている映像教材のサンプルが会場で公開されました。

## ESD と震災 ～災害教育という考え方

RQ 災害教育センターの広瀬敏通さんは、東日本大震災直後の被災地での救援活動について話しました。「RQ 市民災害救援センター (RQ 災害教育センターの前身組織) は、今回8ヶ所のボランティアセンターをつくり、現地に物資を持っていくことから始めました。70 チームが現地で作られました。その中で、被災地での活動は「ESD 的だ」と言われたそうです。「被災地の現場教育は、人格的な成長をめざましくもたらしていきます。しかし、現在の日本の災害教育は、防災教育が中心です。被災地では、ボランティアに訪れた人たちも人格的に成長する教育法というものが非常に有効ではないかと思っています。災害の事前、事中、事後のうち、事に力を入れることで、地域防災が高まり、人格的成長をもたらすのです」。

市内の公民館で  
活発な議論が  
行われました

# 分科会



全国ミーティング2日目の6月16日には、岡山市内の4会場に分かれて分科会が行われました。分科会ではテーマ別に議論を行ったほか、それぞれの会場で参加者同士の交流を進めました。

## 第1分科会（高島公民館）

### 「生物多様性をいかした地域づくり」

ESD-Jの壽賀一仁が進行し、まず高島・旭竜エコミュージアムを語る会の大橋弘司さんが、高島小学校で行った蛭やアユモドキの授業について、「授業の最後ではいつも『僕たちが楽をしたり便利になると、自然がちよっと減る。僕たちがちよっと我慢すれば、自然が保たれる』という話をします」と語りました。続いて、岡山理科大学の太田有香さんが「ホタル観察会の取り組み ホタルを通じた小学生への環境教育」について発表しました。さらに、琉球大学の大島順子さんが、やんばる（沖縄島北部一帯の豊かな森が広がる地域）の自然を守る上での課題について、「地元の方が地域を知り、学び合わないといけない。お互いの立場をどう理解できるかです」と話しました。

## 第2分科会（岡西公民館）

### 「人と地域の力を引き出すコーディネーション」

岡西公民館の峰松妙さんは、「この地区は高齢化率が高く、一人暮らしの高齢者が多い。県外に行ってしまう子どもたちに地域の良さを再発見してほしい」と話し、

「坪田譲治の作品から故里を考えるワークショップ」や、地域の一人暮らしの人を支える“地域にみんなでつながり隊”などの取り組みを紹介しました。「つながり隊に子どもたちを入れたい。いずれ、持続可能な社会に貢献するような人になってもらいたい。その共通項としてESDがあると思っています」。続いて北九州ESD協議会の三隅佳子さんが、北九州で行っているESDコーディネーター研修の事例を紹介しました。その後、ESD-Jの森良が進行して、公民館利用者の声を聞き、さらに会場全体でワールドカフェを行いました。

## 第3分科会（京山公民館）

### 「学校と地域が連携したESD」

最初に金沢大学の鈴木克徳さんから、「地域と学校をつなぐという場面で、京山もそうですが、一つは公民館や図書館といった社会教育機関の職員が地域の方々との調整役に非常に大きな役割を果たしました」という話がありました。続いて、岡山市の流尾正亮さんが進行し、京山公民館の平島省三さん、京山中学校の徳山順子さん、教育委員会の堀井博司さ

んから、「この公民館では若い方から高齢者まで、教えたり教えられたりすることができるのが大きな点だと思います」。「何よりも体験すれば感動し、そこにコミュニケーションが生まれ、生徒自身の意識が変容していく」など具体的な話をうかがいました。その後、参加者全員がグループに分かれて議論を行いました。

## 第4分科会（岡山大学）

### 「体験・事例から語る復興のコーディネート」

ESD-Jの長岡素彦が進行し、まず南三陸町の阿部正人さんが、「震災のときは小学校が地域の避難所になりました。“生きる力”とよく言いますが、我々の生きる力が問われ、何をしていくかをみんなで話し合っ決めていきました」と自らの体験を話し、参加者間の議論を促しました。続いて岡山大学の佐々木麻衣さんが、意識調査とシミュレーションから岡山での防災上の課題は「危機意識の向上」と「要援護者支援」であると発表しました。最後に、ジュリ・ムテーさん、王雲風さん、エレノア・ジェミソンさんの3人の留学生が被災地で感じた想いを話しました。

## 全体会 「岡山を通してESDを学ぶ」

2日目の午後には、岡山大学に参加者全員が再び集まり、まず各分科会からの報告がありました。第1分科会からは「共存に焦点をあてて子どもたちも農家の方も一緒に考えるようになり、それを公民館がつなげる働きを持っている」、第2分科会からは「地域の力を引き出すには、まずは色々な人々が集まる地域交流

の場が必要である」、第3分科会からは「公民館というものを見直して、より積極的に地域と学校とのつながりをつくっていく」、第4分科会からは「地域に何かをつくるとき、知らない（知らされていない）、学んでいない。そういうところに対してESDというのは力を発揮できる」という報告がなされました。

続いて、ESD-Jの森が進行し、「『未来へつなぐ人（ESDコーディネーター）』のツボをつかむ」というテーマで、会場全体でワールドカフェを行いました。ここでは、ESDコーディネーターについて、「未来をつくる“場”を、一緒に寄り添ってつくれる人」、「現場に強い愛情を持って他の人に伝えていける人」、「多様な価値観を結びつけることができる力」などの意見が共有されました。



## 2015年以降のESD推進の仕組みづくりについて

2日間の議論の最後に、ESD-Jの新海洋子が進行し、ESD-Jの阿部治と岡山市の内藤元久さんから、2015年以降の仕組みづくりについて話していただきました。阿部は、「この10年は助走期間でした。我々は続ける仕組みをつくらなければなりません。持続可能な社会のためにはネットワークが必要であり、このためにはESD全国センター・地域センターが必要です」と呼びかけました。内藤さんは、「岡山市には個別組織をつなぐ力があります。国内外の地域を国際的につなぐこともできています。ESD推進のあり方を一緒に考えさせてほしい」と話しました。

# 「ESDの10年・地球市民会議」への ESD-Jの取り組み

来年度日本で開催される“ESDに関するユネスコ世界会議”「国連ESDの10年」の総括会合が愛知・名古屋および岡山を拠点にして開催されることになり、その準備が官民を挙げて本格的に始まっています。ESD-Jは、昨年度に引き続き、本年度も「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラムとの共催で、“ESDに関するユネスコ世界会議”に向けて毎年実施されている「ESDの10年・地球市民会議2013」（主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会）を開催することとなりました。

ESDにたずさわる多彩なプレーヤーが一堂に会して日本および世界の最新動向を共有する場を提供し、ESDをさらに推進するための課題について参加型の討議を行いながら、2014年のDESD（国連ESDの10年）総括年をオール・ジャパンで盛り上げると同時に、ポスト2014年におけるESDのさらなる発展進化のプロセスを問うシンポジウムとなることを目指しています。そのために“地域ガバナンスを徹底的に高める”、“アーカイブ化を積極的に進める”、“すぐれた実践を評価し積極的にほめる”の3つをテーマとしました。

また、続いて翌日に開催される「ESDテーマ会議2013」（主催：ESDの10年・世界の祭典）推進フォーラム）は、防災教育と気候変動教育、生物多様性とESD、



2011年「事業化ワークショップ」\_総括会合

持続可能な生産と消費、歴史文化遺産と人材育成、貧困撲滅と社会的公正のための教育の5つの重要テーマを切り口に、それぞれの事例からESDの効果・成果や課題を探り、日本の中でESDをさらに広めていくためのワークショップです。今回は開催地の岡山の優れたESDプロジェクトとコラボレーションし、ESD先進地域・岡山の取り組みについてもよく分かるプログラムを実施することになっています。

さらには、「ESD地球市民村／ラーニング・プログラム」（主催：「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム）として、「ESDプログラムを一度体験してみたい!」という一般の方々に向けて、優れたESDプログラムを選んで体験できる初めての参加型事業を行う予定です。

DESDの提案国である日本には、既に環境教育としての取り組みや地域の課題解決のための人づくり、総合的な学習の提案など、ESD的な素地を基にしたそれぞれ単独の取り組みがありました。これがDESDを契機に、ようやくESDの名の下に多様なセクターの連携がなされ、動き始めています。学校教育では、ESD推進の枠組みが整備され、教育基本法（教育振興基本計画）での位置付けが明確になりました。また、高等教育機関の改革も始まっています。国連機関の中で、「持続可能な開発のための教育」の重要性はあらためて浮き彫りにされてきているのです。

ESD-Jは、ESDのより一層の推進のために、あらゆるステークホルダーと連携・共同し、2014年以降の具体的な提案を行っていきます。その契機としての重要なポイントが、「地球市民会議」であり、「ESDテーマ会議」です。

（文：ESD-J代表理事 重政子）

\* ESD-J 全国ミーティング 2013 in 岡山の詳細な報告および映像は、下記ウェブサイトのトップページにある「ESD 最新トピックス」のコーナーからご覧ください。

○ ESD-J ウェブサイト  
<http://esd-j.org>

## 新メンバー紹介



2団体、13名の方が  
新メンバーに加わりました。

- 団体正会員 NPO 法人としまユネスコ協会
- 個人会員 13名（北海道1名、東北1名、関東6名、中部1名、中国2名、九州1名、海外1名）
- 賛助会員 株式会社伊藤園

## ◇ 今後の予定 ◇

**10月18日(金)**  
**ESDの10年・地球市民会議2013**  
(於：岡山コンベンションセンター)  
主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会

ESDにたずさわる多彩なプレーヤーが一堂に会し、ESDをもっと広めるための課題について参加型の討議を行うシンポジウムです。

**10月19日(土)**  
**ESDテーマ会議2013**  
(於：岡山コンベンションセンター)

主催：「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム  
5つの重要テーマとその優れた実践を切り口に、それぞれの事例からESDの効果・成果や課題を探るワークショップです。

**11月30日(土)**  
**ESD地球市民村／ラーニング・プログラム<第1次>**  
(於：豊田産業文化センター)

主催：「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム  
ESDプログラムを一度体験してみたい一般の方向けの、選んで体験できる参加型事業です。

**2014年1月13日(月・祝)**  
**ESD地球市民村／ラーニング・プログラム<第2次>**  
(於：ウインクあいち)

■詳細はこちら→<http://www.desd.jp>

編集後記

全国ミーティング前日の夕方に岡山駅に降り立ったときは、そのぎりぎりする暑さにおののきました。初日は雨、翌日はまた夏空に戻り、ともかく暑い岡山でした。さて、今回の全国ミーティングは岡山市との共催で行いました。前後に行われたエクスカージョンでは、職員の方の案内で直島を訪れたり水をめぐる旅をしたりしました。また、岡山のおいしいピオーネ（ぶどう）を参加者に振舞っていただきました。岡山市ESD世界会議推進局を始めとする岡山のみなさまには、本当に何から何までお世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。（ESD-J事務局 山本かおり）

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

<http://www.esd-j.org/> e-mail: [admin@esd-j.org](mailto:admin@esd-j.org)

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 日能研ビル201

TEL: 03-5834-2061 FAX: 03-5834-2062

● 会員募集中：正会員（10,000円）、準会員（3,000円）詳しくはHPをご覧ください ●

発行：認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

編集：ESDレポート編集チーム レイアウト：河村久美



この印刷物は、適切に管理された森林の認証木材から作られた紙と、輸送マイレージに配慮し、米ぬか油を使用したライスインキで印刷しています。